

## 林良一博士 (GFDL) の急逝を悼む

林 良一会員 (Dr. Yoshikazu Hayashi) は10月5日急逝されました。慎んで、哀悼の意を表します。

林氏は、熱帯気象および大気大循環のスペクトル解析に関する研究により、1982年度日本気象学会賞を受賞されており、また、気象集誌 (JMSJ) の編集委員を10年以上に亘って努めるなど、学会活動に大きな貢献を果たされました。この他、投稿論文の英文添削などにも個人的に協力の手を差し伸べるなど、世話になった人も少なくないと想像されます。学会として誠に惜しい人を失いました。

林氏は、1972年に東京大学大学院博士課程を修了後、米国に渡られ、プリンストン大学内の海洋大気庁地球流体力学研究所 (NOAA/GFDL) に、PD を経て研究員として就職し、Dr. S. Manabe のグループに属して大気大循環モデルの数値実験の解析や大規模大気現象の理論的研究を行い数多くの論文を書くなど、世界の第一線で活躍してこられました。



写真は、チェロを演奏中の林氏です。東大のオーケストラ時代からチェロの名手で、渡米後もその演奏が縁で Ella と知り合い結婚されたと聞きます。

\*

\*

\*

早や10年余の時間が経過したか、とプリンストン大学のチャペルの入り口に立って、黄色く木々が染まり始めたばかりの冷たい小雨の降るキャンパスを見渡しながら、私が初めて GFDL に長期滞在するようになった頃、林さんが私をこのチャペルに案内してくれたのを思い出しました。その場所で、林さんの葬儀。言葉もありません。

大学院の学生であった頃から林さんとおつき合いがありましたから、30年来の友人です。私の下宿が大学の近くにあつて、しかも林さんの自宅もその近くであった関係で、朝の講義の時など、通りがかりに私の下宿に小学生がするように声を掛けてくれることもよくありました。その後もずーと、子供のようなはにかみと親しみに満ちた性格は失われませんでした。そのような一面はそのまま研究にも投影されているように

思います。わき目もふらずに気象研究と向かいあつた林さんは、日本の今の気象界ではすっかり影をひそめた純粋の研究者の1人であったという気がします。

(木田)

10月7日の朝、1通の回報が届きました。林 良一さんの急死を伝えるものでした。Yoshi の愛称で呼ぶほど親しいおつきあいはなかったけれど、あの林さんに違いありません。

林さんが日本を去って以来30年にわたり、私と林さんとの間のおつきあいは、もっぱら論文を通じて続けました。私が原稿を書くごとに、コピーを送ります。すると林さんは、英文の添削を含む親切な訂正と、改訂に役立つコメントを添えて送り返してくれます。私の方も、気象集誌に投稿された林さんの原稿に何度かコメントを送ったこともあります。林さんが MEM によるスペクトル解析の FORTRAN プログラムを開発

して投稿してきたことがあります。使えなければ意味がないので、sin 波を与えて試算してみたところ全然スペクトル・ピークが出ない、どこか間違いがあるのでは、と返信したところ、このプログラムは気象じょう乱の解析には適しているが、sin 波だけの場合はピークがシャープ過ぎて出ないとのこと、注記しておきましょう、ということになりました。また別のスペクトル解析のプログラムを開発して投稿してきたとのこと、こちらで入力してテストしてみたのですが、どこかにミスがあるらしく走らない。そうしたら一束のパンチカードを送ってきて、使いたい方は丸山のところでコピーしてもらおうように、と加筆されました。カード時代の思い出です。

林さんは、スペクトル解析の気象学的利用を進展さ

せ、とりわけ GFDL の大循環モデルプロダクトの一連の研究に最も効果的かつ成功的に適用しました。林さんの解析方法を私も利用したことがありますが、直接間接に活用した研究は数多くあります。

昨年 (1998) 4 月、気候システム研究センターが開いた故新田教授追悼のシンポジウムで林さんと再会しました。あたかも新田さんが引き合わせてくれたかのようななつかしい集い、しかしそれが最後の出会いとなってしまう。今はご遺族に心からお悔やみを申し上げるのみです。

(丸山)

木田 秀次 (京都大学)

丸山 健人 (東京学芸大学)

## 国際学術研究集会への出席補助金受領候補者の募集のお知らせ

—国際学術交流委員会—

日本気象学会細則第 7 章「国際学術交流」に基づき、国際学術研究集会への旅費もしくは滞在費の補助を下記により行いますので、希望者は期日までに応募願います。

### 記

#### 1. 対象の集会

A : 2000年 6 月 1 日～11月30日および

B : 2000年12月 1 日～2001年 5 月31日の期間外国で開かれる国際学術研究集会

#### 2. 応募資格

日本気象学会会員で国際学術研究集会に出席し論文の発表もしくは議事の進行に携わる予定のもの。ただし、ほかから援助のあるものは除く。

#### 3. 募集人員 若干名

#### 4. 補助金額 開催地域を考慮し最高15万円程度

#### 5. 応募手続

所定の申請書類を期日までに国際学術交流委員会

(〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-4 気象庁内日本気象学会気付) に提出する。大学院生は指導教官の推薦状を併せて提出する。

期日：A 2000年 3 月15日

B 2000年 9 月15日

注：申請書は最新の様式のもので日本気象学会事務局から取り寄せるか、気象学会ホームページにあるものを使用すること。申請書の様式は断りなく変更することがある。古い様式の申請書で応募しても受理しない。

e-mail での申請は受け付けない。

#### 6. 補助金受領者の義務

当該集会終了後30日以内に集会出席の概要を「天気」に掲載可能な形式で1ページ (2000字) 程度にまとめ、報告書として委員会に提出する。